

大学の世界展開力強化事業（平成23年度採択）中間評価結果

大 学 名	関西学院大学
タ イ プ	B - I I
構 想 名	日加大学協働・世界市民リーダーズ育成プログラム「クロス・カルチュラル・カレッジ」

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <b style="font-size: 2em;">A	これまでの取り組みを継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント) <p style="margin-top: 20px;">本プログラムは、カナダ3大学との十分な交流実績を基に緊密な連携により、クロス・カルチュラル・カレッジ（CCC）構想の実現に向けて、協働教育が着実に進められている。</p> <p>実施体制については、日加4大学による共同運営委員会及び共同教務委員会が組織され、事業の運営、教育内容、質保証等について大学間の合意形成が図られるとともに、アドバイザリーボードが設けられ、外部の有識者から助言を得る体制が整備されている。また、関西学院大学においても、「世界展開力推進室」（コーディネーター教員2名と専任職員4名の計6名を配置）が設けられるとともに、相手大学の一つであるトロント大学内にオフィスを設置し、独自財源で専任職員を長期派遣するなど、実施体制の整備が進められている。</p> <p>カリキュラムについては、CCCの中核となるCertificateプログラム（CP）に関して、個々の大学が提供する授業科目の詳細について合意がなされていることに加え、日加4大学が協働で提供する科目（ジョイントセミナー、グローバルインターンシップ、グローバルキャリアゼミ）についても開発が行われている。</p> <p>外国語力スタンダードについては、「English for Cross-Cultural Studies」の開講などの努力により、数値目標を大幅に上回る成果を上げているとともに、受入学生数についても、数値目標を上回っている。</p> <p>一方で、本プログラムの中核であるCPを修了したカナダ人の受入学生数は数値目標を上回っているものの、日本人の派遣学生数は数値目標10人に対して実績2人と数値目標を大幅に下回っている。その理由としては、英語力がCP修了要件を満たしている日本人学生はいるものの、日本人学生間でCCCやCPの意義が十分理解されていなかったためと分析していることから、今後はCP修了に至るよう十分な学生指導が望まれる。</p>	